

西太平洋海軍シンポジウム(WPNS)について

【概要】

- ・ 1988年以降、2年ごとに西太平洋地域の海軍参謀総長等の参加を得て開催されている地域唯一の多国間海軍協力のための枠組み。
- ・ 近年のWPNS (Western Pacific Naval Symposium)では、海上安全保障に関する取組や作戦運用等におけるインターオペラビリティの向上、HA/DR (人道支援・災害救援)を含めたMOOTW (戦争以外の軍事作戦)等の新たな領域における多国間協力を模索。

【メンバー国 (21カ国)】

オーストラリア、ブルネイ、カンボジア、カナダ、チリ、中国、フランス、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、ニュージーランド、パプアニューギニア、ペルー、フィリピン、ロシア、タイ、トンガ、シンガポール、米国、ベトナム

【オブザーバー国 (8カ国)】

バングラデシュ、インド、メキシコ、パキスタン、イギリス、コロンビア、スリランカ、エクアドル

CUES(洋上で不慮の遭遇をした場合の行動基準 (Code for Unplanned Encounters at Sea))について

【経緯】

- ・ 各国艦艇が洋上において予期せず遭遇した場合における不測事態防止のために準拠すべき行動や信号を定めたものであり、オーストラリアによって2000年に提唱。
- ・ 2014年4月の西太平洋海軍シンポジウム(WPNS)本会合においてメンバー国21カ国が全会一致で採択。

【安全に関する処置】(抜粋)(仮訳)

艦長又は船長(これに準ずる者)は、誤解されるおそれのある動作をとる前に、起こり得る結果を考慮する必要がある。なお、慎重な指揮官が一般的に回避する動作は次を含む。

a) 遭遇した船舶又は航空機の方向に砲、ミサイル、射撃管制レーダー、魚雷発射管又はその他の武器を向けることによる攻撃の模擬